

入賞

プラスチックによる海問題

岩出中学校 二年 塩路 彩恵

みなさんは、海がプラスチックで大変なことになっていることを知っていますか。私がこのテーマを選んだ理由は、海が大変なことになっていることを皆さんに知ってもらいたいからです。

プラスチックは、洋服や自動車など、私たちの生活のあらゆる場面で利用されていますし、ビニールや発泡スチロールなどの包装や梱包などにも幅広く使われています。しかし、プラスチックの多くは「使い捨て」されていて、利用後、きちんと処理されずに環境中に流出してしまふことがあります。そして、環境中に流出したプラスチックのほとんどが最終的に行き着く場所は「海」なのです。なので、海が大変なことになっています。

プラスチックによる、想定されている海の被害は、主に三つあります。

一つ目は、「海洋生物への影響」です。プラスチックが海に流れ着くと、波の影響や紫外線を受けることで「マイクロプラスチック」と呼ばれる細かい粒子になります。マイクロプラスチックは、洗顔料や歯磨き粉にも使用される素材ですが、プラスチックそのものが体内に入ると有害な物質です。このような微量な粒子は、海洋生物の体内に取り込まれ体内に蓄積されたり、マイクロプラスチックに収着した化学物質などが生物に影響を及ぼしています。

二つ目は、「観光業への影響」です。たくさんの人たちが、きれいな海を求めてやってきたり、海水浴やダイビングなどを楽しむために海にきますが、プラスチックによって汚染された海には、こなくなってしまうので、観光業での収入は減ってしまい、経済的損失が大きくなってしまふという影響を及ぼしています。

三つ目は、「漁業や養殖業への影響」です。本来漁業や養殖業で取れるはずの海洋生物の漁獲量が減るという問題があります。これは、プラスチックごみが海洋環境を破壊し、生態系が狂う・プラスチックによって、生物が傷を負ったり、死んでしまったりして数が減るなどが原因です。また、漁獲用の網などにごみが絡まってしまうことで、海洋生物がかからない・網が使えなくなるといった損失もあります。これらも海洋生物の漁獲量が減っている原因の一つです。漁業や養殖業には、このような影響を及ぼしています。

私は、このような海に及ぼしている影響をテレビで見たり、調べたりして知りました。

これらの影響が及んでいると知ったとき、とても驚きました。私は、海洋生物が好きなので、海洋生物がプラスチックの影響で死んでしまふことを知ったときは、悲しかったです。なので、私は今後、このようなことが起きないように何か対策はないのかと調べてみたところ、日本だけではなく、世界の色々なところで対策が行われていました。日本では、中国の輸入規制や、プラスチックごみの削減に向けた方針・計画の策定などが行われているそうです。アメリカでは、プラスチックを原料とするストローやマドラーを禁止する法案を可決した州や、再生材の利用促進のため、再生プラスチックの比率の記載の義務付け、環境配慮製品調達のためのシステムである「包括的物品調達ガイドライン (CPG)」、「バイオプリファードプログラム」を元に、プラスチックを再利用する取り組みを進めているそうです。EUでは、「EUプラスチック戦略」という方針を打ち出し、取り組みにあたっています。EUは、4つの柱を軸にプラスチックごみの対策を行っているそうです。

このような問題は、私たちの手で防ぐのは不可能ですが、私たち消費者一人ひとりの行動が、海を守ることになるのは確かだと思います。まずは自分の今の生活を見直し、できることを考えて動き出すことが大切だと思います。